

# ニュージーランド 可憐な花と植物

～山で見かける固有種いろいろ～

① ラージマウンテン・デイジー

NZデイジー科50種の中の最大種



② マヌカ

英語名はティーツリー。蜂蜜は人気のお土産。



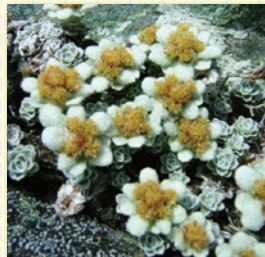
③ エパラスティング・デイジー

花の直径は、デイジー科の中で最小種



④ サウス・アイランド・エーデルワイス

高山の岩場にだけ生息、実はデイジー科



⑤ マウント・クック・リリー

キンポウゲ科の世界最大種



⑥ マーガリート

南島の高山のみ生息、色は白や黄色



⑦ コロミコ

ゴマノハグサ科で11～12月に花が咲く



⑧ マウンテン・フォックス・グラブ

一つの茎から円形の輪に花が咲く



⑨ レザリー・リープ・マウンテン・ヒービー

ゴマノハグサ科、雨を好む高山種



⑩ プリクリー・シールド・ファーン

南島の湿地に多く生息するシダ



⑪ マオリ・オニオン

高山に群生するユリ科、花は黄色



⑫ グリーン・フットッド・オーキッド

NZラン科20種の代表格



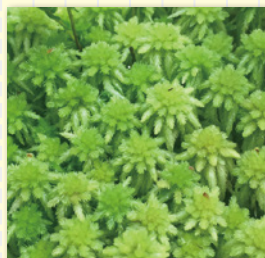
⑬ クラウン・ファーン

シダの国NZ、200種の代表格



⑭ スファグナム・モス

NZ苔類550種の中のミズゴケ類



⑮ サザン・ラータ

夏に山を赤くするほどの花が咲く



## “タカヘ”を守るプロジェクト

野鳥の国として知られるニュージーランドには、現在328種の鳥が確認されています。そのうちの66種は、他のどの国でも見ることができないニュージーランド固有種とされています。

もともと天敵となる哺乳類がいなかったニュージーランドでは、鳥たちは逃げるために飛ぶ必要がなくなり、長い年月の間に地上生活に適応した“飛べない鳥”が進化していったことはよく知られています。しかし18世紀にヨーロッパ人による植民地化が始まり、イタチをはじめとする動物たちが持ち込まれると、新たな天敵に遭遇した飛べない鳥たちはあっという間に数を減らし、タカヘも1898年に絶滅したとされていました。そのタカヘが、ミルフォード・トラックの出発点にほど近いマーチンソン山脈で“再発見”されたのが1948年のこと。それ以来、ニュージーランドでは、この鳥を守り、数を増やすための努力が続けられています。

アルパインツアーでは、フィヨルドランド国立公園でハイキングするツアーの売り上げの一部を、保護活動を推進しているDOC（自然保護省）に寄付し、その活動を支援しております。寄付金は、大きく分けて2つの目的のために使われる予定です。ひとつは、天敵であるイタチを駆除するための罠の設置です。もうひとつは、DOCが運営する

## DOCによる希少動物保護活動

タカヘ保護区の維持・管理です。今後、さらに保護区を増やしていく予定としており、今回の寄付金は、主にこのプロジェクトのために活用されるということです。

人工飼育・人口孵化の技術が年々高まり、現在タカヘの生息数は約380羽、保護区での生息数も増えてきています。今後も、タカヘの数が増え続けることを期待し、明るいタカヘの将来を願っています。



タカヘとは…

クイナの仲間で、体長は約60cm。光沢のある青と緑のグラデーションが美しく、大きな赤いくちばしを持ったニュージーランド固有種の飛べない鳥です。

アルパインツアーでは、2010年からこのプロジェクトを始め、今年で10年目になります。2019年はNZ\$1,520をDOC(自然保護省)に寄付いたしました。